

2020年(R2年)

6月

No. 340

ひととは



社会福祉法人 ひととは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホム・ツ・ア・リ) http://hitoha-fukushi.com (メルアド・リ) honbu@hitoha-fukushi.com

コロナ感染禍は、色んな施設で集団感染が起ころ、一度にたくさんの方々が発症するという事態も起き、悲惨な状態が続いています。いまでも必死に戦い続けられている方々に心底敬意を表したいと思います。

集団での生活や活動を共にすることを使命にしている施設にとって、どこで起きても不思議はありません。少しの体調不良者が出て、不安と恐怖におののきます。

緊急事態宣言を受ける状態にあつて、共同ホームひととはは合同ひととは力を発揮して、生活を守り、命を守る取り組みをしてきました。一番大切にしていることは、危機状態にある中で、いかに日常を守ることができるかということです。臨機応変な生活を

するのが苦手な人たちは多くいます。その人たちにとっての日常をサポートし、なおかつ安全を確保するという事は職員にとって大変なことだろうと思います。また「まだ終息という訳にはいきませんが、「自分ならこんな生活をした」とわが身に置き換えて

支援の在り方を工夫している職員の奮闘ぶりには涙ぐましいものがあります。

今回の危機状況にあつても見失ってはならないことは、人権への配慮だと思ひます。差別や偏見中傷で失う痛手は弱者といわれる人たちに集中します。

「あんたもされてみい、なさけないでよ」という仲間の声にしっかりと耳を傾けながら、これからもこの危機に取り組んでいきたいと思ひます。

(理事長 寺尾 文尚)

35周年記念号発行に向けて、通信の読み返しを編集委員で手分けをして行つています。通信を読むとひととはの歴史がよく分かります。今回の発行に伴い、向原町長田在住のグラフィックデザイナー竹原真二さんに紙面のデザインをお願いすることにしました。竹原さんは安芸高田市地域おこし協力隊としても活動されています。記念号の進捗を少しづつお伝えしていきたいと思ひます。(竹内宏美)

あたらしく入ったひととはの仲間たち

名前 黒瀬 瑞希

所属 ひととは作業所

好きな食べ物 ポテトチップス

好きな食べ物 たまごやき

好きな食べ物 チョコレート

好きなこと 歌、CDを

好きなこと きくこと

名前 西原 広途

所属 ひととは作業所

好きな食べ物 かきたまうどん

好きな食べ物 きつねうどん

好きな食べ物 カレー、いちご、枝豆

好きなこと 乗り物を見たり、調べたりすること。乗ること

好きなこと 今一番行きたい所は、広島空港に飛行機を見に行きたい

名前 清水 智夏

所属 ぴあ・くらぶ

最近笑った話 以前お世話になっていた、ある保育園の男の子が、あいみょんの曲「マリーゴールド」のことを自信たっぷりに「マリーゴールド」と、隣に居た職員と大笑いをして、ほろりとした瞬間でした。

名前 實藤 美香

所属 就労センターあっぷ

最近笑った話 未っ子の娘が色々笑わせてくれ、家族をなごませてくれます。

最近では、変顔をして、家族みんなを笑わせてくれました。

「朝の大切なルーティーン」

もやいの事務所を 昨年の5月から「99目的スペースあんき」に設け、約10年ぶりに
向原拠点に帰ってきました。

朝10時前になると、アグリサポートの西崎さんがほぼ毎日あんきに挨拶に来ます。
私も西崎さんが来るタイミングで玄関を開けて「おはよう！今日も頑張リしよう！」と
声をかけます。すると、満足そうに笑ってアグリ行きの送迎車に戻っていきます。

西崎さんは、学生の時に長期休暇支援で関わりがあったことを覚えているようで、
私も当時のやり取りを思い出して嬉しくなります。私にとって元気の出る朝の大切な
時間になっています。
(相談支援事業所もやい 岡崎 慎治)

「吉田口駅にて」

電車が来るのを待っていると「今日もお迎えですか？」と地域の方に声をかけられ
た。「休まずにどう来ての頑張リ屋さんじゃ。おかげで私も70才になるまで働
めることができた。朝、見かけた時は1日元気で頑張れたんよ。久しぶりに
会えるかね。いい挨拶してよね。」と。その時、電車が到着。「また会いましょう」と
入れ違いで電車に乗られた。今日も元気に「おはよう」と挨拶する頑張リ屋
さんとは、若月さんのことです。

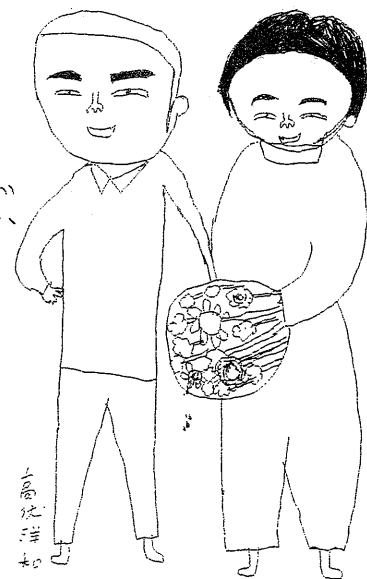
サリサリを話すと、「楽しいけー来とるだけなのにな。」とさらりと返答が。挨拶を
交わっていた人から素敵な話を聞くことができ、嬉しく思いました。
(就労センターあぶ 長岡 逸子)

「ブルーベリーの元気の源」

法人事務所前に育つブルーベリーの木。今年も元気に花を咲かそうと、すくすく育てます。
実は、その水を切らさぬようにいつも見守、てくださっているのが、「ひとほの最長老」農園の
貞近さんです。バケツに水を汲み、何度も往復して水を溜めます。ひびの痛みをこうえ 黙
黙と運ぶ姿を見る度に「こけちゅーいけんけん」と心配しすぎる私。「しゃーないよ。」と気を
つけながら歩く貞近さん。今年もたくさんの実りを期待して、少しでも貞近さんの手伝
いがかきたらと思います。
(ひとほ工房 岡崎 梓)

「想いを込めて花束を」

竹坂さんがひとほを去ることになり、高伏さんと花束を買いに
町内の花屋さんへ。高伏さんは花束を買いに行くのは初めてのようで、
ワクワクそわそわ。そんな中、店員さんに花束とメッセージカードを用意
してもらった。
西本邸に戻り、竹坂さんへ花束を。喜びと共に「高伏さんを息子の
ように感じている。なんとか自立して家庭を築いてほしい。」と
伝えられた。
(ひとほ長屋 立野 兵治)



絵:高伏 洋和

「思いを育てる」

ある日、個別療育をする部屋に移動していると、後ろを歩いていたYくんが何やらブツ
ブツ言っているのが聞こえました。だいたい予想はつきながらも聞き返さずにいると、すごく
申し訳なさそうに「大番さんが悪いわけじゃないんだけど、これいつまでするん？大番さんが
悪いわけじゃないけど、ちょっとこの時間、あんまり好きじゃないんよ。」と。
私を気づかってものすごく言葉を選ぶYくんの優しさに心がしぼった。そして何よりも、自分
の思いをしっかりと言葉で伝えることができたYくんの成長に感動した出来事でした。
(ひあくらぶ 大番 有記)

～コンテナガーデン～

以前から、農園の目でゴツゴツ
すすめています。6月中旬、ブルーベリー
がたくさん育つ頃には計画の3分の2
程できあがりです。丸岡さんが「男の
手料理です」と言った、豪快さか
自慢のガーデンテーブルとチェアを
設置。
地域おこし協力隊としても活動
している青山さんも
一役かっています。

縮み
集
後
地
子

外菜が少なくなったので午後車を走らせる。
いずの病院も面会できない。患者名を交付
所へ荷物と病棟取りに…。教組で
野菜の！玄関上部の4階まで。スズメ
連絡窓から顔を覗かせることに。スズメの
〇〇通話もできるらしいけど、
干渉する。海をやるを安心する世代！

